

地域再生計画

1 地域再生計画の名称

嵐山町版活力ある地域・ひと・しごとづくり事業計画

2 地域再生計画の作成主体の名称

埼玉県比企郡嵐山町

3 地域再生計画の区域

埼玉県比企郡嵐山町の全域

4 地域再生計画の目標

4-1 地方創生の実現における構造的な課題

農業者の高齢化（RESAS による農業経営者の年齢構成について 75 歳以上の就労者が全国 21.7%に対し、嵐山町 36.3%）が進んでいる。既存の農産物直売所があるが、売上が伸びていない。新たに農産物を購入する世帯が他地域から訪れるしかけが必要となっている。

嵐山町には田畑が多くあるが、農産品を使った特産がない。特産をつくり、農業者の収益を増やし、新たな農業就農へとつなげるしかけが必要となっている。

地域資源を新たな着眼により開拓し、町内外とつなげ、交流させることも必要となっている。多くの住民からは、地域資源があるのに活用されていないとの意見が出されている。しかし、それらを行う中心的な人材育成が課題となっている。

嵐山町には、歴史、自然など地域資源が豊かである。その中でも、千年の苑に近接している嵐山溪谷 BBQ 場は、民間サイトでは日本一の人気を誇る BBQ 場となっている（るるぶ.com2016）。しかしながら、嵐山溪谷 BBQ 場には多くの方が来てもらっているが、それが次のエリアに繋がっていない。農業の高齢化も進み、農業環境を新たに展開し、農業関係の新たな収入増が図れる起爆的なエリアも求められている。

全国No.1 の嵐山溪谷 BBQ 場に近接し、老若男女問わず多くの方が訪れる新たな農業観光スポットが求められている。

4-2 地方創生として目指す将来像

農業、商業、自然、歴史、文化などの嵐山町の豊かな地域資源を新たな視点で着目し、新たな観光農業を始めとした人と物の流れをつくる。古き良き

時代を再評価する事業も実施することにより若い農業者が増え、6次産業化による特産などの販売が増加する。活性化を自ら実施するコーディネーターが地域内外の交流を進め、地域の資源がバージョンアップすることにより、地域の魅力的が新たに生まれ、まちのブランド化が図られる。地域に人を呼ぶしかけと、ものを売るしかけと、地域資源を磨くしかけの多方面の「しかけ」をすることにより、魅力的なまちと形成し、人口の減少を抑えていく。

嵐山町は、埼玉県の中央部にあり、鉄道では東武東上線で池袋から約1時間、関越自動車道嵐山小川IC、嵐山PA、国道254号など交通網が比較的充実している。さらに木曾義仲公、畠山重忠公など有名な武蔵武士ゆかりの地であり、国指定史跡の菅谷館跡、杉山城跡がある歴史ある地であり、日本初の林学博士本多静六博士が「京の嵐山」に似ているといわれた自然豊かな地でもある。農業においては、古くから養蚕、稲作等を行ってきたが、農業者の高齢化（75歳以上の農業就労者の割合が国21.7%に対し、嵐山町36.3%：RESASによる）が進んでおり、耕作放棄地も進んでいる。新たな農業環境の展開を図るため、10.5haの関東一のラベンダーファームをオープンさせ、都市型近郊観光農業により多くの観光客が来ることを目指す。ラベンダーファームは農業団体が運営し、農産物及びラベンダーを加工した農業以外の物産の販売、障害者施設による物品販売、町の特産品の販売などを行い、農業による所得に加え、農業以外の収入の増加を図ることにより、農業経営者の所得の向上を実施し、農業者の育成、後継者の育成などを行う。

【数値目標】

	事業開始前 (現時点)	平成29年度 増加分 (1年目)	平成30年度 増加分 (2年目)	平成31年度 増加分 (3年目)
交付対象事業※ ¹ による経済効果	748千円	6,677千円	18,810千円	100,370千円
めんこ61プロジェクト販売店の来店者数	1,360人	12,140人	8,060人	13,440人
らんざん活性化チームプロジェクトのイベント参加者数	0人	1,000人	2,000人	1,950人
既存の農産物直売所における千年の苑事業以降の売上増加分	0千円	0千円	19,000千円	19,000千円
千年の苑ラベンダー農園による経済効果	0千円	0千円	0千円	93,510千円
千年の苑ラベンダー農園の来場者数	0人	0人	20,000人	30,000人
千年の苑観光手芸用施設利用者数	0人	0人	710人	710人

	平成32年度 増加分 (4年目)	平成33年度 増加分 (5年目)	KPI増加分の 累計
交付対象事業※ ¹ による経済効果	0千円	0千円	125,857千円
めんこ61プロジェクト販売店の来店者数	0人	0人	33,640人
らんざん活性化チームプロジェクトのイベント参加者数	0人	0人	4,950人
既存の農産物直売所における千年の苑事業以降の売上増加分	0千円	0千円	38,000千円
千年の苑ラベンダー農園による経済効果	53,200千円	14,600千円	161,310千円
千年の苑ラベンダー農園の来場者数	30,000人	20,000人	100,000人
千年の苑観光手芸用施設利用者数	0人	0人	1,420人

※1：交付対象事業は、千年の苑事業・めんこ61プロジェクト・らんざん活性化チームプロジェクト

5 地域再生を図るために行う事業

5-1 全体の概要

関東随一である10.5haのラベンダー園(平成31年度本格オープン予定)で体験教室や農産物の販売、6次産業化など農業者が新たに売上を伸ばすしくみを整備する千年の苑事業を実施する。埼玉県では作付けされていない、嵐山町産の小麦「農林61号」による地粉うどんと野菜天ぷらを販売し、農業者の売上と新たな雇用も創るめんこ61プロジェクトを実施する。嵐山町版「地域おこし協力隊」として、地域資源を見直し、つなげ、バージョンアップし、物産等の販路拡大、地域間交流を生み出すコーディネーターを雇用

し、育成する地域活性化チームプロジェクトを実施する。(嵐山町は地域おこし協力隊対象外地域) 嵐山町名発祥の地であり紅葉で有名な「嵐山溪谷」に更にイロハモミジを約 300 本植栽(平成 27 年度植栽)したため、適正に維持管理し、紅葉の名所として活用していく。

5-2 第5章の特別の措置を適用して行う事業

(1) 地方創生推進交付金(内閣府):【A3007】

① 事業主体

埼玉県比企郡嵐山町

② 事業の名称: 嵐山町版活力ある地域・ひと・しごとづくり事業

③ 事業の内容

千年の苑事業: 関東随一である 10.5ha のラベンダー園を平成 31 年度に向けて本格オープンさせ、多くの方が訪れるしかけをつくる。ラベンダー園では、体験教室や農産物の販売、ラベンダーを使用した 6 次産業化等を行うなど農業者が新たに売上を伸ばすしくみを整備し、農業者の雇用の確保を行う。

めんこ 61 プロジェクト: 埼玉県では作付けされていない、嵐山町産の小麦「農林 61 号」による地粉うどんと野菜天ぷらの販売を実施する。地粉うどんという埼玉県民が好む名産とそれに関連した野菜等を販売し、農業者の売上を伸ばし、新たな雇用も創る。

らんざん活性化チームプロジェクト: 嵐山町版「地域おこし協力隊」として、地域資源を見直し、あらゆる嵐山町の地域資源をつなげ、バージョンアップし、様々な物産等を町内外に販路を広げたり、交流を進めるため、まちの活力を生み出すコーディネーターを雇用し、育成する。(嵐山町は地域おこし協力隊対象外地域である)

④ 事業が先導的であると認められる理由

【自立性】

千年の苑事業は、駐車場料金又は入場料や物品の販売で 3 年後に独立を目指している。一部不足する場合は町の一般財源により負担を行う。

めんこ 61 プロジェクトは、本事業終了までに販売による収入で自立することを目標に進めている。

らんざん活性化チームプロジェクトの町おこしディレクターは、(1) コラボレーション、(2) バージョンアップ、(3) リミットをコンセプトとしてい

る。3年間を条件に採用を実施している。

【官民協働】

地権者、JA、障害者団体、観光協会、商工会、金融機関、文化団体など町内のあらゆる機関に対する協働による事業展開を行う。

【政策間連携】

嵐山町の地域資源を見直し、磨くらんざん活性化チームが町おこしディレクターを中心に町内だけでなく、町外ともつなげ、広げる。歴史も観光も農業も前例にとらわれず、新たな視点でつなげていく。

【地域間連携】

嵐山町は武蔵の京都であり、木曾義仲公生誕の地である。そのような地域資源を活用し、広域的な地方公共団体と連携を図っていく。

【その他の先導性】

地域資源である関東一のBBQ場、紅葉、山城の教科書といわれる杉山城跡などあるが、「何もないまち」との印象を与えている。さらなる関東一のラベンダーファームといった思い切った観光農業、古き良きうどん文化の復刻、新たな人材によるつながりなどにより、新しい「嵐山町のブランド化」が図れ、都市近郊型の人口減少した町の活性化対策の成功事例を目指す。

⑤ 重要業績評価指標（KPI）及び目標年月

【数値目標】

	事業開始前 (現時点)	平成29年度 増加分 (1年目)	平成30年度 増加分 (2年目)	平成31年度 増加分 (3年目)
交付対象事業※ ¹ による経済効果	748千円	6,677千円	18,810千円	100,370千円
めんこ61プロジェクト販売店の来店者数	1,360人	12,140人	8,060人	13,440人
らんざん活性化チームプロジェクトのイベント参加者数	0人	1,000人	2,000人	1,950人
既存の農産物直売所における千年の苑事業以降の売上増加分	0千円	0千円	19,000千円	19,000千円

	KPI増加分の 累計
交付対象事業※ ¹ による経済効果	125,857千円
めんこ61プロジェクト販売店の来店者数	33,640人
らんざん活性化チームプロジェクトのイベント参加者数	4,950人
既存の農産物直売所における千年の苑事業以降の売上増加分	38,000千円

※1：交付対象事業は、千年の苑事業・めんこ 61 プロジェクト・らんざん
活性化チームプロジェクト

⑥ 評価の方法、時期及び体制

【検証方法】

6 月前後に産官学金労言を含む総合戦略等検証委員会で検証を行い、
提言を受ける。検証内容等については公開する。

千年の苑事業のラベンダーによる商品化やめんこ 61 プロジェクトに
ついて、効果が把握できない場合や販売が思わしくない場合に見直し
を行う。

らんざん活性化チームプロジェクトの活動内容が対外的に発展しな
い場合は見直しを行う。

【外部組織の参画者】

・総合戦略等検証委員会委員

○産業界：観光協会、農業委員会、商工会、JA ○教育機関：大学教授
等、教育委員長 ○金融機関：町内金融機関 ○労働団体：公共職業安
定所 ○マスコミ：ケーブルテレビ ○知識経験者：自治会連合会会長、
社会福祉協議会、PTA 連絡協議会、民生・児童委員等

【検証結果の公表の方法】

ホームページ

⑦ 交付対象事業に要する経費

・法第 5 条第 4 項第 1 号イに関する事業【A3007】

総事業費 175,462 千円

⑧ 事業実施期間

地域再生計画認定の日から平成32年 3 月31日（3 ヶ年度）

⑨ その他必要な事項

特になし

(2) 地方創生拠点整備交付金（内閣府）：【A3007】

① 事業主体

埼玉県比企郡嵐山町

② 事業の名称：千年の苑施設整備事業

③ 事業の内容

体験型観光を行うため、観光客がラベンダースティックやポプリなどの手芸用品を製作する場所及びトイレを整備する。製品化したラベンダースティックやポプリや農産物、6次産業物産、町の特産品、障害者施設で制作された物産等も販売する。千年の苑事業の平成32年度売上目標は、入場料16,500千円、物産売上144,100千円、体験型手芸教室売上710千円、合計161,310千円としており、町の平均所得の向上に寄与する。

④ 事業が先導的であると認められる理由

【自立性】

現在、ラベンダーの植栽・維持管理は農業団体である農業法人らんざん営農が行っている。本施設の維持・管理においても、農業団体が行う。当該観光施設の初期の大型投資は町が実施するが、関東随一のラベンダーファームのブランドを確立させ、嵐山溪谷等の名勝を活かし、来場者の増加を図ることにより、駐車場収入や入場料収入、物産の売上等により年間161,310千円の経済効果を見込み、それにより維持・管理費を捻出していく。

【官民協働】

嵐山町観光協会、嵐山町商工会、JA等と連携し、物産の販売を行う必要がある。既に嵐山町千年の苑事業推進協議会を立ち上げ、行政、自治組織の代表、農業者、農業生産組合、障害者雇用施設、嵐山町観光協会、嵐山町商工会により協議を行っている。当協議会は行政が調整役となり、地域の協力依頼（自治組織の代表）、観光PR（観光協会）、物産の提供（商工会、障害者施設）、農産物の提供（農業者、農業生産組合）の連携を行っている。

さらに多くの観光客を呼ぶため、観光客の増加と車による渋滞緩和を同時に行っていく必要がある。嵐山町観光協会と連携し、公共交通機関である東武東上線の使用によるより多くの集客を図るため、東武鉄道のグループ企業と連携を行っていく。

【政策間連携】

当該施設は、農業と観光が融合した施設である。農業では、農業団体が運営し、収益を上げていく。観光では、観光客が多く集まるため、他の観光資源（都幾川桜堤（2キロに渡る桜の名所）、嵐山溪谷 BBQ 場（るぶ. com2016 全国人気スポットNo.1）、嵐山溪谷（紅葉の名所）、杉山城跡（戦国期の名城）などの観光資源）へとつなげる案内も実施する。さらに地域に近接した障害者施設で制作された物産の販売を行うなど福祉との連携も図る。現在、学校ファームとして学校敷地内の小農園で学校で作業をしているが、児童・生徒にも農作業の体験をさせるなど、教育との連携も行っていく。

【地域間連携】

北海道富良野地域などラベンダーが有名な地域・団体との連携を図る。お互いの情報提供や、お互いの特産物の販売など収入増加につながる取り組みを行う。特に「北の国から」の関係者との連携を模索し、富良野・「北の国から」のネームバリューを利用した他のラベンダー地域にはない個性を模索している。富良野地域とはラベンダーを通じ、相互の観光の PR と物産の相互販売を実施する。

⑤ 重要業績評価指標（KPI）及び目標年月

	事業開始前 (現時点)	平成29年度 増加分 (1年目)	平成30年度 増加分 (2年目)	平成31年度 増加分 (3年目)
千年の苑ラベンダー農園による 経済効果	0千円	0千円	0千円	93,510千円
千年の苑ラベンダー農園の来場 者数	0人	0人	20,000人	30,000人
千年の苑観光手 芸用施設利用者 数	0人	0人	710人	710人

	平成32年度 増加分 (4年目)	平成33年度 増加分 (5年目)	KPI増加分の 累計
千年の苑ラベン ダー農園による 経済効果	53,200千円	14,600千円	161,310千円
千年の苑ラベン ダー農園の来場 者数	30,000人	20,000人	100,000人
千年の苑観光手 芸用施設利用者 数	0人	0人	1,420人

⑥ 評価の方法、時期及び体制

【検証方法】

産業界、教育機関、金融機関、労働団体、マスコミ関係、知識経験者による嵐山町総合戦略検証委員会を設置し、実施した施策・事業の効果について審議を行う。

【外部組織の参画者】

産業界：観光協会・農業委員会・商工会・農業協同組合、学：教育委員長・大学、金融界：地元金融機関、労働界：公共職業安定所、マスコミ：地元ケーブルテレビ、各種団体及び知識経験者：自治会会長・社会福祉協議会・PTA 連絡協議会・民生委員・児童委員・文化団体連合会、公募者等

⑦ 交付対象事業に要する経費

①第5条第4項第1号イに関する事業【A3007】

総事業費 34,041千円

⑧ 事業実施期間

地域再生計画認定の日から平成34年3月31日（5ヵ年度）

5-3 その他の事業

5-3-1 地域再生基本方針に基づく支援措置

該当なし

5-3-2 支援措置によらない独自の取組

(1) 武蔵嵐山管理活用事業

事業概要：嵐山町名発祥の地である「嵐山溪谷」周辺地は、埼玉県
の偉人である本多静六博士が、この地を訪れ、「こ
こは武蔵嵐山だ」と呟いた地である。

本多博士は、この地が「べた一面」に紅葉があったた
めそう呟いたといわれたため、その風景を 30 年後に
復活させるべく、既に紅葉の名所として知られてい
る嵐山溪谷周辺地にイロハモミジを平成 27 年度に大
小含めて約 300 本植栽した。

紅葉の名所として町民の誇りになるような地とする
ため、適正に維持管理し、活用していく。

実施主体：埼玉県比企郡嵐山町

事業期間：平成 28 年度～

6 計画期間

地域再生計画認定の日から平成 34 年 3 月 31 日（5 カ年度）

7 目標の達成状況に係る評価に関する事項

7-1 目標の達成状況にかかる評価の手法

【検証方法】

6 月前後に産官学金労言を含む総合戦略等検証委員会で検証を行い、
提言を受ける。検証内容等については公開する。

千年の苑事業のラベンダーによる商品化やめんこ 61 プロジェクトにつ
いて、効果が把握できない場合や販売が思わしくない場合に見直しを行
う。

らんざん活性化チームプロジェクトの活動内容が対外的に発展しない
場合は見直しを行う。

【外部組織の参画者】

・総合戦略等検証委員会委員

○産業界：観光協会、農業委員会、商工会、JA ○教育機関：大学教授
等、教育委員長

○金融機関：町内金融機関 ○労働団体：公共職業安定所 ○マスコミ：ケーブルテレビ

○知識経験者：自治会連合会会長、社会福祉協議会、PTA 連絡協議会、民生・児童委員等

7-2 目標の達成状況にかかる評価の時期及び評価を行う内容

	事業開始前 (現時点)	平成29年度 増加分 (1年目)	平成30年度 増加分 (2年目)	平成31年度 増加分 (3年目)
交付対象事業 ^{*1} による経済効果	748千円	6,677千円	18,810千円	100,370千円
めんこ61プロジェクト販売店の来店者数	1,360人	12,140人	8,060人	13,440人
らんざん活性化チームプロジェクトのイベント参加者数	0人	1,000人	2,000人	1,950人
既存の農産物直売所における千年の苑事業以降の売上増加分	0千円	0千円	19,000千円	19,000千円
千年の苑ラベンダー農園による経済効果	0千円	0千円	0千円	93,510千円
千年の苑ラベンダー農園の来場者数	0人	0人	20,000人	30,000人
千年の苑観光手芸用施設利用者数	0人	0人	710人	710人

	平成32年度 増加分 (4年目)	平成33年度 増加分 (5年目)	KPI増加分の 累計
交付対象事業※ ¹ による経済効果	0千円	0千円	125,857千円
めんこ61プロジェクト販売店の来店者数	0人	0人	33,640人
らんざん活性化チームプロジェクトのイベント参加者数	0人	0人	4,950人
既存の農産物直売所における千年の苑事業以降の売上増加分	0千円	0千円	38,000千円
千年の苑ラベンダー農園による経済効果	53,200千円	14,600千円	161,310千円
千年の苑ラベンダー農園の来場者数	30,000人	20,000人	100,000人
千年の苑観光手芸用施設利用者数	0人	0人	1,420人

※1：交付対象事業は、千年の苑事業・めんこ61プロジェクト・らんざん活性化チームプロジェクト

7-3 目標の達成状況にかかる評価の公表の手法

毎年度、総合戦略等検証委員会終了後、嵐山町ホームページにて公表する。